

令和5年度 北見カトリック学園 認定こども園北見藤幼稚園 学校評価

1. 教育目標

- ・一人ひとりがかけがえのないものとして、神様から愛されていることを知り、喜びと悲しみを共に分かち合い祈る。
- ・友だちと一緒に遊びや運動を通して、運動機能の発達をはかる。
- ・発達段階に即した自立心を促す中で、健康に必要な習慣や態度を身につける。
- ・自然と関わり、神様の偉大さ、不思議さに気づき、すべての恵みに感謝すると共に、すべてのものを大切にすることを養う。

2. 教育目標達成に向けての5年度の重点

- ・良く食べられる、よく遊べる、よく学べる基本的な育ちの環境を整える。
- ・カトリック幼稚園としての教育的使命を理解し、教育生活の中で実践できる教師を目指す。
- ・日常生活の中で神を身近に感じられる経験ができる。感謝おわび赦しができる子を育てる。
- ・年齢、性別、個性、資質にこだわらず、お互いを尊重し認め合える子ども集団を目指す。

評価項目	結果	理由
教育内容・環境の充実と計画性	3.6	恒例的に取り組んでいる活動が形骸化しないように取り組みの見直しが見直しができた。子どもの自由活動は職員の経験年数により達成感が異なる。
保育の充実と園児との関わり	3.6	園児の情報が職員間でよく共有できている。担任と担当者が連携を図り、園児の課題克服に向けて協力しあえた。新しい実践の計画ができなかった。
安全管理	3.6	防災訓練は定例化できた。シェイクアウト食事の提供で実践での検証点が見つかった。職員室の在室が手薄になり訪問者の対応ができないことがある。毎日未就園児教室があり玄関の施錠が徹底できなかった。安全点検が徹底され子どもの怪我の検証ができ再発防止に努められた。
地域の幼児教育機関としての役割	3.7	今年の未就園児教室は親子英語教室や担当者がフォトコーナーなど工夫を凝らして取り組んだ。年齢ごとの参加日を撤廃し火～金自由参加にしたことで延べ人数が増えた。子育て支援講座は毎年新しい取り組みができた。
教員の資質・能力向上	3.3	園内研修の定例化ができなかった。特別支援研修は補助職員を含めて深めることができた。実践研修は全体のものにはならなかった。自発的な研修が不活発だった。
保護者との連携	3.3	登降園管理システムが習慣化され、保護者との連絡が密になった。保育活動が動画や写真で速報されて関心を持たれるきっかけになった。

※結果の表示方法 4 十分達成されている 3 やや達成されている 2 あまり達成されていない 1 取り組まれていない

4. 5年度の総評

結果	理由
3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の年齢が幅広く、相互の意見交換ができた。 ・経験年数のある職員に業務が偏りがちだった。 ・コロナ禍の緩和により地域への関わり方(老人施設訪問等)に積極性がなかった。 ・小学校との円滑な接続を目指して年長児が学校訪問する機会を持つべきだった。

5. 来年度に向けての課題

- ・従来の教育活動の他に英語教育食育等の取り組みをするが、時数の見直しを図り、職員も子どもも忙しさを感じない工夫をする。
- ・独身職員が減り誰もが子育てをしながらの就労となる。ひけめや窮屈さを抱えることのないようなチームワークを作る。
- ・引き続き、特別支援児と家族に寄り添い子育ての自信や喜びを共有する。